

2026年3月18日(水) ハコラク4月号 掲載

医療の現場から『知っておきたい MRI 検査で分かること』

石田 雄大 診療放射線技師

知っておきたい MRI検査で分かること



函館中央病院

診療放射線技師

石田 雄大 さん

「頭痛が続く」「手足がしびれる」「体のどこかに異常がないか調べたい」そんなときに行われる検査の一つがMRIです。MRIは体の中を画像として映し出し、目に見えない変化を詳しく確認する検査です。

脳の検査では、脳梗塞や脳出血、腫瘍の有無などを調べます。特に脳梗塞は、発症して間もない段階でも変化を捉えやすく、早期診断に役立ちます。また、物忘れやめまい、原因不明の頭痛など、はつきりした症

状がなくても検査が行われることがあります。

脳の血管を調べる検査として「MRA」があります。MRAは、血管の形や流れを画像として映し出し、狭くなっている部分やふくらみを確認します。この検査は、症状が出る前の「未破裂脳動脈瘤」の発見に役立ちます。未破裂脳動脈瘤は自覚症状がほとんどないため、検査で偶然見つかることも少なくありません。早めに見つけることで、経過観察や

治療の判断につながります。

首や腰の検査では、椎間板ヘルニアや神経の圧迫、脊柱管の狭さなどを詳しく確認します。骨だけでなく、神経や筋肉、靭帯といった柔らかい部分まで見ることができ、痛みやしびれの原因を探る検査として広く使われています。ひざや肩などの関節の痛み、転倒やスポーツによるけがの確認にも有効です。

MRIには「DWI・BS（ドゥイブス）」という撮影方法もあります。DWI・BSは全身を一度に撮影し、がんなどの病変が疑われる部分を探す検査です。体のどこに異常があるか分からない場合や、治療後の経過を確認する際に用いられます。広い範囲をまとめて調べられる点も特徴です。放射線を使わず、体への負担が少ない点も安心材料の一つです。

近年はAI技術の活用により、従来よりも撮影時間を短くし、より分かりやすい画像を作成できる装置も登場しています。検査は医師の判断のもと、診療放射線技師が安全に配慮しながら行っています。気になる症状があるときは、早めに医療機関へ相談しましょう。